

【取組内容②】 オンラインで筆者と繋ぐ～筆者に質問しよう『オオカミを見る目』（1／2）

1. 本実践の背景とねらい

国語科の「読むこと」における「個別最適な学びと協働的な学び」の実現には、生徒が主体的に読む姿勢が必要である。「読む」活動をより主体的なものにし、「読み深める」活動を協働的なものにすることを実現するため、本単元は、ICTを活用することにより、「本物に出会う」活動と、「多面的な読みを実現する」活動を行いたいと考えた。本単元の説明的文章「オオカミを見る目」（東京書籍）の著者高槻成紀氏は、鳥取県出身である。高槻氏に協力を仰ぎ、生徒に「本物に出会う」活動が実現した。また、他校の教諭に共同研究をお願いし、それぞれの読みを協働的に深め合う活動を行った。以下にその具体的な内容を報告する。

2. 実践内容

2-1. 課題の設定

本単元は、中学校での初めての説明的文章であり、中学校学習指導要領国語第1学年の「読むこと」において、

「（1）ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること」

「（1）エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」などを目的としている。生徒はこれまでに、小学校で様々な説明的文章を読んできているが、説明的文章をどう読むか、説明的文章にはどのような特徴があるか、ということについて、深く考える機会が少なかったようだ。従前の、意味段落に分ける、意味段落ごとに読み取る、という手順ではなく、「この文章にはどのような特徴があるか」ということをきっかけに、単元を構成した。生徒は次のような特徴を見つけた。

- ・ 問いかけている文章がある。
- ・ 昔のヨーロッパと日本のオオカミを見る目を比べている。
- ・ 昔と今の日本のオオカミを見る目を比べている。
- ・ 序論、本論、結論に分けられる。
- ・ 具体例があり、分かりやすい。
- ・ 接続語がたくさんある。

これらの内容について、「疑問に思ったり、不思議に思ったりしたことはないだろうか？」と問うと、問いかけに対して答えはどこだろう、なぜ現在のヨーロッパについては書かれていないのだろう、という問いが生まれた。そこで、「問いを立てて文章を読み取り、筆者に直接質問しよう」というめあてを設定した。

2-2. 情報の収集

一人一人が「問い」を考えた後、班で話し合い、「文章の読み取りを深める問い」を一つに絞った。本文を読み込んだり、インターネットの情報を集めたりする活動を行った。すぐに答えが見つかるもの、調べれば分かるもの、文章の読み取りに繋がらないものは、この活動を通して淘汰された。

○文章の特徴 ○問いかけている文章がある。 ○昔のヨーロッパと日本のオオカミを見る目を比べている。 ○昔と今の日本のオオカミを見る目を比べている。 ○序論①～④ ○本論⑤～⑮ ○結論⑯～⑰ ○具体例：童話（説得力） ○接続語がたくさん使われている。 ○問いについての答えが書かれている。	○⑤～⑮で1つ目の疑問 ○⑦でヨーロッパ ○⑨で日本 ○⑪～⑮で2つ目の疑問 ○⑬でイメージについて ○⑭でその結果絶滅したこと ○⑮でその結果の問題点
--	--

